

なんだ・かんだ

◆ ビット・コイン ◆

先日の日経新聞に「ビットコイン」という言葉が出てきたのですが、全く知らなかったので、ちょっと調べてみました。

「ビットコイン」は、低い手数料でネット通販の決済や国際送金を、金融機関を介さずに世界中の何処でも行う事ができる、ネット上の仮想通貨で、発行総額は、時価で90億ドル(約9200億円)程度とされ、決済できる小売業者は、世界で1万4000社程。パソコン・アウトドア用品・衣類・航空券・宅配ピザ等まで買えます。

今ではこうしたデジタル通貨専門の取引所まであり、マウントゴックスという最大規模の取引所が東京にも開設されています。この専門の取引所で、円やドルといった通貨と交換でき、送金を受け取った先でも必要な金額を必要な通貨で引き出す事が出来るということです。

ビットコインの相場は円相場と同様変動します。通貨とは違い、中央銀行が流通量を調整する様な仕組みがありません。7月に1ビットコイン=90ドル前後だったのが、10月末に200ドル、更に11月末には1200ドルに。現在は700ドル程度まで下落していますが、年初13ドルだったというので、1年で50倍以上に高騰している非常に相場の乱高下が激しい通貨です。

更にまるでゲームの様なのですが、この通貨は有限で現物商品的な要素があり、パソコンである数式を解くとビットコインを手にする事が出来ると言います。これを「採掘」といい、金や石油を掘り当てるのと同じです。ただ、1回の採掘で得られる量は微量で、かつ計算には膨大な時間が掛かります。また、ビットコインの生成量は有限で、年々採掘により生成されるビットコインの量は少なくなります。

登録者数は、世界で約80万人。米・欧が多く、日本人は約4000人と0.5%程度しかいません。利用が急拡大している国が中国で、最近では世界の取引のほぼ半分を占めるともいわれています。

ビットコインはネット通販でも決済は一瞬で、使い勝手も悪くなく、グローバル時代ならではの決済手段と言われていますが、ただ、通貨とビットコインを交換するのは民間の専門取引所で、その経営が破綻すれば、ビットコインを通貨に戻せなくなるリスクがあり、保有するビットコインがいきなり無価値になったらという不安も残ります。相場の乱高下も激しく、大量保有には大きなリスクが伴います。

5年ほど前にこのコラムでもご紹介したウェブ上の仮想空間であるセカンドライフや、中国のデジタルサイトで使われる通貨同様にデジタル通貨の一つとして次第に成長しているこの通貨の開発者は、日本人「中本哲史」と名乗る正体不明の人物説や、欧米のハッカー集団説等諸説あります。マネーロンダリングや麻薬等不法なものの取引に使われる懸念もあり、米財務省は今年3月に仮想通貨の規制指針を公表し、取引所は規制の対象とし、登録を義務付けました。日銀でもこの通貨に「大いに興味がある」として、現在金融研究所で調査・研究していると言います。

色々な事を考える人が居ます。難しく理解に苦しむ点もあるのですが、今後世界経済の常識になるかもしれないと思い取り上げて見ました。



「メリークリスマス！」早いもので、1年が暮れようとしています。年ってこんなに短かったかな？毎年毎年時間が経つのが早く感じますが、子供の頃と時間の経過する速度は同じなのではないでしょうか？疑いたくありません。今年1年、どの様な年だったのでしょうか？経済では、昨年末の衆議院選で自民党が大勝し、その後の「アベノミクス」効果で円安・株高になり、デフレも一服と言った感がありますが、来年には消費税の増税もあります。まだまだ、われわれ中小企業がその上昇の波に乗っているとは言えないのが現状ではないでしょうか。

しかし、5年後の2020年には東京オリンピックが開催される事も決まりました。来年の後半は景気は良くなるという企業経営者の予想も出ています。来年はきつと良い年になると思います。

そして、契通信も8年間継続する事が出来ました。当初取りあえずの目標としていました100号も間近です。来年には達成できそうですが、もう少し継続していこうと思えますので、お付き合いの程宜しくお願い申し上げます。皆様におかれましては、良い年をお迎え下さい。

代表取締役 服部 肇 一郎

今年もお世話になりました。

機能性塗料⑨

● 防火塗料 ●

防火塗料は、多くは塗装された塗膜が延焼で加熱されたときに発泡して、厚い空気による断熱層を作る事によって基材表面の温度上昇を妨げ、基材自体が燃えてしまうのを防止するものです。

40年ほど前に、スプリンクラーなどの消防設備を設置する代わりに防火塗料を塗って代替する方法が消防法の特例として制定され、美術館・博物館などスプリンクラーが作動すると展示品がダメになってしまう様な施設で使われる事が想定され、多くのメーカーが開発をして、(財)日本消防設備安全センターの認定を得ました。特例措置は間もなく廃止された為、実際に消防設備代替塗料として使われた認定塗料は少なかった様ですが、現在でも防火や延焼防止の目的で、多くの塗料が上市されています。

当社でも20年ほど前に、大型の客船を改装し洋上ホテルにした船の船室に、スプリンクラーの設置が出来ない為にこの防火塗料を塗る引き合いを頂きましたが、残念ながら成約には至りませんでした。



■ 年末年始の休暇 ■

本年は明日12月27日(金)まで営業致します。

年末年始休暇：12月28日(土)から1月5日(日)までの9日間とさせていただきます。新年は1月6日(月)より営業致します。又、1月11日は、第2土曜日ですが、通常通り営業いたします。

この度の年末年始の休暇は、日の巡りから9日間という長い休みをとらせて頂きます。メーカーによって、年末年始の受注及び製品出荷可能日が異なりますので、お得意様におかれましては、当社営業と年末年始の注文についてお打ち合わせいただき、業務に支障の無いようお願い致します。

本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させて頂きます。

・ 株式会社チキリ
静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/